

3 「日常生活に対して問題意識を持てる」ことをめざした授業展開例 1

| 教科(科目) | 公民 (倫理) | 単元 | 現代と倫理 (3) 現代の諸課題と倫理 |
|--|--|----|--|
| 本時の主題 | 家族って何? (2時間目 / 3時間) | | |
| 本時の目標 | (1) 家族内での各人の役割について改めて考える機会にできる。 【関心・意欲・態度】 (2) 非常に情緒的な側面の強い現代の家族にあつては、「平和で安定した家族」が当たり前ではなく、家族関係がかなり危ういことに気づき、それを具体的に発表する。 【思考・判断】 (3) 現代の家族の危うさを理解した上で、改めて家族のつながり、家族内での自分の存在の意味を考える。 【思考・判断】 | | |
| 指導の内容・ねらい | 学 習 活 動 | | 指導上の留意点・観点別評価 |
| ・「現代の家族」の状況を把握する。 5分 (経過時間) | 現代の家族について、前時の内容を確認する。 少子化の進行、核家族化、晩婚化、離婚率の上昇 (特に熟年離婚の増加)、DV、児童虐待、家族観の変化など | | ・前回配布の資料も参考にする。 注1 |
| ・生徒の提出したアンケートの結果から、生徒の抱く家族像を探る。 10分 | 作業シート結果の発表 1, 「こんな家族じゃない!」の場面設定 予想される設定 ・家族の食事がバラバラ。 ・家族各々が一つ屋根の下でバラバラの事をしている。 ・各々が自分の部屋に閉じこもっている。 2, 叫びを發した人にとっての「家族」とは? 予想される答え ・親子が仲良くする。 ・家族が揃って食事をし、そこに会話がある。 ・相談にのってくれる、アドバイスをしてくれる。 | | ・ユニークな設定についても紹介をし、生徒の作品を活かす。 <評価の方法> ・作業シートの事後提出で確認。 ・場面の設定が具体的でわかりやすく書かれているか。 ・他人の作った例を興味を持って聞けたか。【関】 (後のページに作業シートを掲載) |
| ・家族という場の意味を考える。 30分 | Q1, あなたが家族に期待すること(してほしいこと)は何ですか? 予想される生徒の反応 ・自分を信じて任せてほしい。 ・困ったときに相談に乗ってほしい。 など Q2, あなたが家族からされたくないことは何ですか? 予想される生徒の反応 ・勝手に部屋に入らないでほしい。 ・やかましく干渉しないでほしい。 など Q3, 主婦(主夫)になったつもりで、家にいる者として家族に何を期待しますか? 予想される生徒の反応 ・家にいるときぐらい手伝ってほしい。 ・すべてのことをやらせないでほしい。 など Q4, 仕事から帰って来る人(生計を支える人)になったつもりで、家族に何を期待しますか? 予想される生徒の反応 ・疲れて帰ってくるんだから、ゆっくりさせてほしい。 など ↓ Q5, Q1~Q4をまとめると、どんな家族になるか? ・各々がバラバラの家族、つまり「こんな家族じゃない」家族ができてしまう。 | | ・自分以外の家族の立場も考えさせ家族に対する見方が深まるように問いを發する。 <評価の方法> 役割を的確にイメージし、自分の考えをまとめ、わかりやすく意見を述べる事ができたか。【思】 |
| ・家族がその構成員に果たしてきた役割を認識する。 | Q6, あなたが将来家族を持つとしたら、どんな家族にしたいですか? 予想される生徒の反応 ・平和で安心できる家族。 ・わがママが言える家族。 ・気兼ねのいらぬ家族。 など (生徒の作りたい家族像をまとめる) | | ・ここでは「家族を持つ」という前提で話を進める。 <評価の方法> 【思】 自分のこととして考えられたか。テーマにそった発言ができたか。【思】 |

| | | | |
|---|---|----------------------------------|-----|
| 40分 | <p>Q 7 , とこで、「家族」が社会の中で果たしてきた役割 (家族機能) にはどんなものがあったのだろうか?</p> <p>「家族機能の外部化」について ↓ 残っている家族の機能 ・種族の保存 夫婦の営みのみ 家族の機能 (役割) は ・扶養、保護 一部外部化が進行 ⇒ 情緒的 (感情的) 側面 ・精神的安定 が強くなっている。</p> | 倫理資料集を参照 | 注 5 |
| 改めて、家族の意味 そこにおける自分と 自分以外の家族との 関係を見つめ直す。 45分 | <p>Q 1 ~ 5 のことをふまえ、Q 6 を実現するには、家族ひとりひとりがどんなことを考えなくてはいいか?</p> <p>・「平和で心休まる家族」は自然にできるのではなく、そこにひとりひとりの他人への思いやりが必要であることを考える。</p> | | 注 6 |
| 50分 | 授業のまとめ (発展) として、改めて、DV、児童虐待、親殺し・子殺しなどのテーマを選択し、その原因を考えるレポートを提出する。 | < 評価の方法 > レポートの事後提出で確認 【思】 | |

< 指導上のポイント、考察 >

- (1) 言うまでもなく、生徒の家庭状況は多様であり、実態に即して扱わないといけないうデリケートなテーマである。授業の眼目は、あくまで生徒ひとりひとりが現在及び将来の家族 (または、それに代わる集団) において、安心できる場所を築くための意識を持たせることにある。個別の家族の現状についての善悪 (成功と失敗) を考えるものにならないよう注意しなくてはならない。
- (2) 生徒の主体性が言われる中で、グループを作って家族をめぐる問題について調べさせることも考えた。しかし、先述のように多様な家庭状況がある中、調査や意見交換の場での生徒の不用意な発言を避けるために、敢えて生徒の自主的活動は入れなかった。
- (3) まだまだ配慮の足りない部分もあり、一層の改良が必要であることを痛感している。
- (4) 家族に対する思いやりの気持ちが、現在家族が直面している様々な危機に生かされるとよいと思う。
- (5) 「家族の再建」が叫ばれる一方で、家庭崩壊が拡大する中、果たして家族が必要なのかということも議論されてきている。余裕があれば、「家族の必要性」についても考えてみたい。

注 1) この資料は、信田さよ子・西山明著『家族再生』(小学館)の巻末資料(P198~P217)からの抜粋であり、14種類の表・グラフを示した。一つ一つについてそこから読み取れることを答えさせると、表・グラフの活用として有効であるが、時間がかかる。

注 2) あらかじめ作業シート(A4版1枚)を作成し、(1)として「こんな家族じゃない!」と家族の誰かが叫ぶ場面を書かせた。箇条書き、イラスト、物語風など形式は自由である。この作業は、別に生徒の生活に基づいて答える必要はない。要は想像力を使ってドラマや映画の1シーンを描けばよい。次に(2)として(1)の発言者が望む「家族」を書かせた。授業では数編の紹介を教師が行った。

注 3) 家庭内での各人の立場をイメージさせる。生徒の多くは、家庭で見たり言われたりしている事を挙げてくるようである。しかし、自分の経験を語らなければならないわけではなく、各自が思い思いに想像すればよい。

注 4) 結果的には、前出の作業シートで設定されたような家庭像ができあがった。

注 5) ここでは家族の歴史的経緯は無視し、家族が自力で生きていかなければならない状況を想定する。現代の家族が弥生時代にタイムスリップしたような、あるいは無人島に家族だけで生活している状況。

注 6) 現代の家族機能は情緒的側面が強いため、なおさら家族各々が他人への思いやりを持たないとむき出しの感情の衝突が起こり、家族が崩壊の危機にさらされることを考えさせたい。

< 参考 >

教科書の資料にも取り入れられている小此木啓吾著『家庭のない家族の時代』(ABC出版)の中で、新しい人間の生活形態について次のように述べている(P270~P271)。なお、この著作は1983年発行と古いが、現代の家族に関する示唆に富んでいる。

「一言でいえばそれは、古い家庭・家族観にかわる「ヒューマン・ネットワーク」観を心の中に準備することである。第一に、一度思い切って、家庭・家族についての既成観念を捨てる。たとえば、子どもの心身の発達を考える場合

に子 母 家族 社会という発達図式から、家族をはずし、それに代わる養育専門家や親代理、あるいは何人もの親などからなるヒューマン・ネットワークを考える。

第二に家庭・家族をもたない個人とか、家庭のない家族といった人間のあり方をノーマルなものとみなす。たとえば、シングルズとして暮らす人々、あるいはホテル家族的な暮らしをする家族、ひいてはバラバラに別なところで暮らす夫婦・家族のあり方を、不本意なことであるとか異常なことだと思わないで、ごく自然なものに思う。

第三は、今までの既成観念からみると不幸な存在にみえる人間のあり方を、むしろ、新しい時代のパイオニアとみなす。たとえば、離婚・再婚しながら、子どもとの絆を保つ努力を続ける人々は、もしかしたら離婚・再婚したことのない人々にとってのパイオニアである。未婚の母・非嫡子（私生児）、実の親に加えて継父母をもちながら育つ子どもたち、結婚しないまま同棲をくり返すシングルズたち。これらの人々は、これからの新しい人間のあり方のパイオニアではないか。

第四は、個人をささえる人間環境として、友人、学校、職場さまざまな施設などのヒューマン・ネットワークを、これまでの家族以上に重要な機能をもつ人間のしくみと考える。たとえば、従来の学校教育は、家庭教育を前提にして成り立っている。しかし、家庭のない家族がふえるとともに、もはや家庭のしつけがきちんとできていないまま保育園・幼稚園、小学校にあがる子どもがふえている。この場合、学校教育そのものが、既成観念とはまったく違った、家庭に代わるヒューマン・ネットワークの機能をもつ時代の到来に対して、真剣な準備をはじめてほしい。

第五は、男性と女性の役割りと在り方についてもっと自由で柔軟な考えをもつ。男性が育児をやり、女性が仕事をするカップルも異常とはみなさない。むしろ、個人がそれぞれにふさわしい個性的で多様な役割りのとり方が可能になるような男性、女性の組み合わせを考える。

第六は、一定時点での純粹で親密な愛情関係を大切にすかわりに、これまでの人間関係が重きをおいていたお互いの間柄の永続性と相互拘束性を断念する。つねに別れと対象喪失に耐える心を養い、一人で生きる強さをもつ。そのうえで、この不確定な要素に満ちた、しかし緊張感の高い愛情関係を大切にす。」

< 単元の指導計画（全3時間） >

- 1 時間目 「現代の家族」の状況を把握する。
- 2 時間目 家族のもつ意味と、その中での自分の役割を考える。（本時）
- 3 時間目 「家族」が舞台の社会問題を考える。